

第41回全日本少年サッカー大会

12月25日(月)16:00～開会式 鹿児島文化ホール

12月26日(火) 予選リーグ

第1試合 兵庫FC 3-1 リベロ津軽(青森)

緊張してとんでもない試合になったらどうしよう? そんな気持ちで試合に入った。私の心配は、現実となった。試合開始から、防戦一方で失点の可能性を感じる場面は何度もあった。しかし、相手のシュートはゴールネットを揺らすことが無かった。開始6分、左サイドから切り込んだ神戸がミドルシュート。見事な先制ゴール。ピンチの後にチャンスあり。まさしく、この言葉通り。

その後もチャンスを作るがゴールができない。前半13分、コーナーキックから失点。いやな雰囲気です試合が進んだ。前半終了直前、右サイドを突破した神戸が再びゴールを奪う。前半1点リードで後半を迎えることが、選手のメンタルを優位に保つ原因となった。

後半は、一人一人の個人技が相手を上回り、藤原楽の追加点につながった。1TOPでボールをキープし、チームの攻めを安定させてくれた楽の貢献度は高い。

緊張する場面を克服し勝利したことが、次の試合に期待を持たせてくれる。そんな雰囲気です、次の試合を迎えることができた。

第2試合 兵庫FC 0-2 J津山(岡山)

この試合の結果が決勝トーナメント進出の鍵を握る。最低でも引き分け。そんな思いで、DFを2枚にした。「絶対に攻め上がるな。守りに専念しろ。」

しかし、右サイドを2度にわたって突破され、失点。2点目はあきらかにオフサイド。開始早々の失点は、選手の戦闘モードに水を差すものであった。

ゴールを奪える場面は、何度もあったが、津山の選手の体を張ったプレーでゴールネットを揺らすことはなかった。

12月27日(水)

第3試合 兵庫FC 1-2 パレイストラ(群馬)

決勝トーナメント進出は、あきらめていた。5点以上の大量得点は望めない。得点力は、はっきり言ってない。ならば、一人でも多くの選手に経験を積ませてあげたい。一つでも多く勝ちたい感情と、選手に経験をという感情とが、交錯する精神状態で試合に臨んでしまった。

初出場の選手を4人、先発出場させた。失点を覚悟していたが、それなりの試合をしてくれた。そして、後半7分、藤原楽の個人技で先制点。このまま勝利できるかもしれないと思った36分、ヘディングでのバックパスが、オウンゴール。さらに終了間際の39分に失点。

兵庫FCの第41回全日本少年サッカー大会は終わった。大会期間中、選手の生活態度はとても立派だった。選手同士の人間関係は良好で、注意するようなことは一度も無かった。試合では勝てなかったが、サッカーを通して育んできたことは、しっかりと子供たちの中に見ることができた。

暖かく見守ってくれた保護者の皆様に感謝。「有り難うございました。」そして最後まで頑張ってくれた選手にも感謝。